

# 中

中央区日本橋に建つ日本銀行本店本館。この建物は、いわゆる「お雇い外国人」の手を借りない、日本にとって初期の本格的西洋建築である。

日本銀行は、通貨価値や金融システムの安定という役割を担う日本の中央銀行として、明治15年（1882年）に開業した。

当初の店舗は、日本橋箱崎町にあった建物を再利用する形で営業を始めたが、すぐに手狭になった。翌年には早くも店舗の移転が決定し、江戸時代から貨幣にゆかりの深い日本橋「金座」跡に本店が建設されることになった。

建築設計を指揮したのは、わが国近代西洋建築設計の先駆者である辰野金吾。後に手がけた赤煉瓦の東京駅丸の内駅舎でも知られる。

辰野は日本銀行を設計するにあたり、欧米各国の中央銀行の建物を視察した。ベルギーの国立銀行を参考に原案を作成し、帰国後に設計をまとめたといわれている。

明治23年の着工から5年半の歳月を経て、明治29年に地下1階、地上3階の日本銀行本店本館が完成した。

建物の構造は、「銀行」としての堅牢性が重視された。当初は総石造りを予定していたが、耐震性を重視するため軽量



## 東京のレトロ建築を歩く

第 5 回

# 日本銀行本店本館

### DATA

名 称 日本銀行本店本館  
所在地 東京都中央区日本橋  
本石町2-1-1  
完 成 明治29年  
設計者 辰野 金吾



ステンドグラスが美しい▶  
本館正面玄関

▼内部はアカンサス唐草模様など  
様々な意匠で彩られている



▼当時の姿をしのばせる  
大理石製の旧営業場窓口

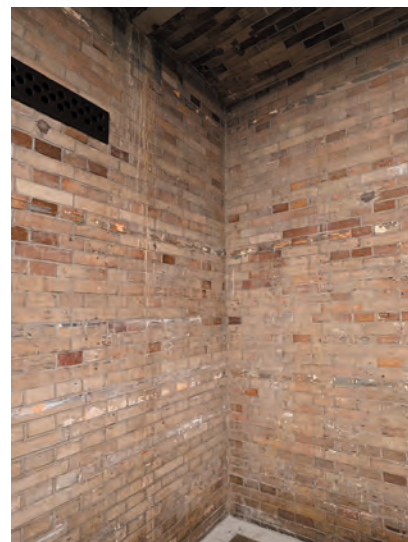






▲日本銀行本店本館

▼地下金庫室には  
建築当時のレンガ壁が残る



ではなく、日本という国家を代表する建築物としての荘厳性や、美しさにも気が配られている。

本館の正面中央にはドームを備え、規則的に並んだ列柱などにネオバロック様式の特徴が見られる。それに加えて厳格な左右対称、壁面などの意匠にルネッサンス様式を採り入れている。

中央玄関を入ると、その奥に東西2か所、吹き抜けの旧営業場（客溜まり）が広がる。営業当時はここで窓口業務が行なわれていた。大理石のカウンターが備え付けられ、壁面にはアカンサス唐草模様などの古典主義様式の様々な装飾が施されている。

地下には金庫室が設けられた。壁面には、吸湿を防ぐために白い釉薬を塗って焼かれたレンガが張り巡らされ、床面には、湧水を防ぐためにアスファルトが塗布されている。

昭和49年（1974年）に国の重要文化財に指定された。

